

トルコギキョウ 10～11 月出し栽培における切花品質向上技術

[要約]

10～11月出し栽培において種子冷蔵後の育苗期間を3週間にすることで、また、育苗用土に固化培地を用いることで、切花品質を向上できる。また、養液土耕で栽培し、さらにその際、新型点滴チューブを埋設して栽培することで、切花品質を向上できる。

農業総合センター園芸研究所

1. 背景・ねらい

近年、本県においてもトルコギキョウの周年栽培をめざし作型が多様化しているが、冷蔵育苗等を用いた 10～11 月出し栽培では切り花品質が悪く問題となっている。10～11 月出しでは直播によって切花品質が向上するとされているが、適品種が少ない。一方、他品目では養液土耕の導入によって開花が早くなり、切花品質が向上するとされている。そこで、10～11 月出しにおける品質向上を図るため、これらの技術の導入が開花品質に及ぼす影響について検討する。

2. 成果の内容

- 1) 切花品質を向上させるため、一次根を傷めない培地の種類と育苗期間について検討した。
- 2) 固化培地では慣行培地および寒天培地より定植後の欠株が少なくなる。また、どの培地でも育苗期間3週間以上ではほとんど欠株が発生しなくなる(表1)。
- 3) 種子冷蔵育苗では冷蔵後の育苗期間を3週間にすることで、開花が早くなり、切花品質が向上できる(表1)。
- 4) 育苗に固化培地を用いることで、慣行培地および寒天培地より切花品質を向上できる(表1)。
- 5) 養液土耕によって、土耕より開花が早くなり、切花長および小花数が大きくなり、切花品質が向上できる(図1)。
- 6) 養液土耕で新型点滴チューブ(特徴:従来型より単位時間当たりの点滴水量が少ない)を用いることで、従来の点滴チューブより開花が早くなり、小花数が多くなり、切花品質が向上できる。また、新型点滴チューブも地下に埋設することで、その効果をさらに大きくできる(図1)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 育苗期間、固化培地、養液土耕および新型点滴チューブによる切花品質向上技術については、それぞれ独立に検討し、総合的には検討していない。

4. 具体的データ

表1 培地・育苗期間の違いが開花・切花品質に及ぼす影響

培地*	育苗期間**	開花日 月/日	切花長 cm	切花重 g	節数	分枝数	小花数	欠株率*** %
慣行	2週間	11/14±8.9	60.9	57.8	5.1	1.7	4.2	14
	3週間	11/18±9.8	58.7	60.9	5.1	1.5	3.4	2
	4週間	11/25±3.6	48.9	45.3	5.3	1.2	1.8	0
寒天培地	2週間	11/22±9.9	55.4	55.7	5.5	1.5	3.5	13
	3週間	11/20±8.3	57.6	56.9	4.8	1.6	4.1	1
	4週間	11/23±5.5	56.5	60.3	5.3	1.4	3.5	0
固化培地	2週間	11/6±4.6	63.3	65.3	5.0	1.8	4.8	6
	3週間	11/8±5.9	66.4	65.8	4.9	1.8	4.5	1
	4週間	11/11±6.1	66.7	66.2	4.9	1.9	4.1	0

*: 固化培地(みのる産業製), 寒天培地(寒天約2%で用土を固化し, セルトレイに充填) 慣行培地(用土を普通に充填)。用土は固化培地で使用されたものと同じ, みのる培土を使用。

** : 5/24播種。5週間の種子冷蔵終了後の普通育苗期間, 遮光率50%下で管理 2週間(7/12定植), 3週間(7/19定植), 4週間(7/26定植)

*** : 定植株に対する枯死株の割合
供試品種:「エクローサピンクフラッシュ」

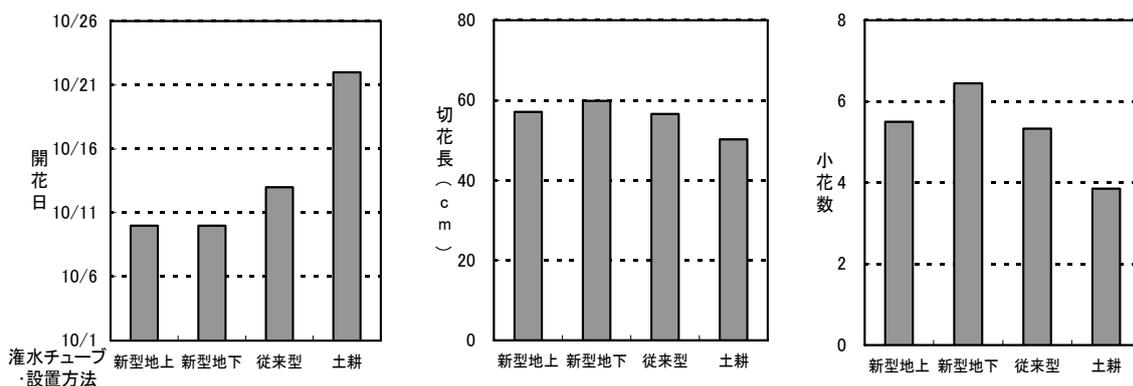


図1 養液土耕における灌水チューブ・設置方法の違いが開花・切花品質に及ぼす影響

注) 平成14年5月24日播種, 10℃暗黒下で5週間低温処理, その後, 50%遮光下で4週間育苗。7月26日定植。定植後2週間はどの区も散水型チューブで灌水した。

新型地上, 新型地下, 従来法は養液土耕栽培。

新型地上: 新型点滴チューブ(らくテンテープ: 望月産業製)をベッド上に設置。

新型地下: 新型点滴チューブ(らくテンテープ)を地下10~15cmに埋設。

従来型: 従来の点滴チューブ(Tテープ)をベッド上に設置。

土耕: 散水型チューブ(スミスンスイ)をベッド上に設置。

供試品種:「ピーターブルーライン」

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

トルコギキョウの冷蔵育苗等を利用した作型における品質向上技術の確立・平成 13~14 年度・花き研究室